

## 企画展 大倉集古館の春 ～新春を寿ぎ、春を待つ～

大倉集古館(虎の門) 24.01.23～03.24

本展は、2024(令和6)年の春を祝し、干支や吉祥、花鳥風月をテーマとした絵画を中心に展覧する催事である。新春の造形として、まず末広がり「扇の作品」として、宗達派による《扇面流図屏風》を始め、日本や中国で作られた「扇絵のコレクション」、干支である「辰」に因んだ伝説の「生き物・龍の作品」、中国伝統の「衣装」や古代の「硯」など「約30件」の展示がある。

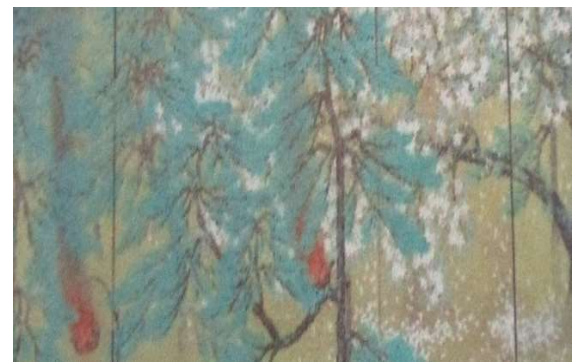
さらに、新春から春にかけての美しい景色を描いた作品では、横山大観の《夜桜》をはじめ、他にも墨の諧調で春を知らせる「水墨画」や、彩りで春を魅せる「着物」の作品を取り上げ、新春を寿ぎ来る春を待つ時期に相応しい当館所蔵品を愉しむことができる。



宗達派 《扇面流図屏風》左隻



右隻 17世紀・江戸時代



横山大観 《夜桜図》 1929(昭和4)年

画伯「横山大観」(1868～1958)が円熟期に描いた六曲一双の屏風形式大作で、黒々とした闇に染まる山を背景に満開の「桜」が画面一杯に描かれている。

風は全くないのか焚火の炎は真つすぐに立ち昇り、桜花びらだけが音もなく散っていく。そして、桜の太幹に対応するかのよう、細い松の幹が数本描かれているが、この松の緑も焚火の真紅と照応して鮮やかに浮かび出ている。